

表紙 「きりん」

ふなと しゅんた [ルンビニ幼稚園]

東京教区教化委員会報 ネットワークナイン

発行日 2020年8月1日

編集 教化委員会広報・出版部門

「ネットワークナイン」班 編集員

総編集長：本田 彰一（東京1）

チーフ：朝倉 俊隆（東京5）

佐々木誠信（東京4） 五島 大地（東京8） 中村 晃（茨城1） 大山 信敬（茨城2）

チーフ：田上 翼（茨城1）

坂東 性悦（東京2） 平松 正宣（東京3） 櫻田 純（東京6） 秦 顕生（湘南）

チーフ：鞠川 卓史（湘南）

内藤 友樹（東京1） 渡邊 尚康（東京3） 田宮 真人（東京8） 相馬 法道（茨城1）

発行 真宗大谷派東京教区教化委員会

〒177-0032 練馬区谷原1-3-7東本願寺真宗会館

TEL. 03-5393-0810 FAX. 03-5393-0814 Email. nw9@ji-n.net

ご意見、ご感想は上記連絡先までお願いします。

もくじ

| | | | | |
|--|---------------|-----|---------------|----------------|
| | 特集 | ●03 | 総合調整総務会 前幹事挨拶 | 近田 聖二 |
| | 特集 | ●04 | 総合調整総務会 幹事挨拶 | 白山 勝久 |
| | 特集 | ●06 | 同朋の会推進部門 幹事挨拶 | 藤谷 真之 |
| | 特集 | ●07 | 研修部門 幹事挨拶 | 西尾 朋央 |
| | 特集 | ●08 | 青少幼年部門 幹事挨拶 | 田澤 廣明 |
| | 特集 | ●09 | 広報出版部門 幹事挨拶 | 本田 彰一 |
| | | ●10 | 法語ポスター | |
| | 教区教化通信 研修部門 | ●11 | オンライン「聖典学習会」 | 市野 光生 |
| | 教区教化通信 青少幼年部門 | ●12 | オンライン輪読会 | 藤森 和貴 平松 正宣 |
| | 教区教化通信 教学館 | ●13 | 私の出遇った言葉 | 小笠原 翔 |
| | 教区教化通信 大谷保育協会 | ●14 | 子育ての大地 | 小林 良子 |
| | はい！こちら真宗会館です | ●16 | 駐在日記 | 佐々木 弘明 |
| | はい！こちら真宗会館です | ●17 | 所員のつぶやき | 中臣 研諒 |
| | | ●19 | 敬弔・涌 | 本田 彰一 |

総合調整総務会 前幹事挨拶

東京7組 顯真寺 近田 聖二



6月末日をもって教化委員会総合調整総務会幹事の役を退任いたしました。在任中には様々なご協力いただきましたこと、またご教示いただきましたこと、紙面をお借りいたしまして感謝申し上げます。

振り返りますと、広報出版部門・『ネットワーク9』と総合調整総務会での教化委員としての経験は、教化事業を実施したということ以上に、専ら教区にお越しいただいたご講師の先生や多くの教区の方々から教えていただいたことが大きかったと感じております。

総合調整総務会の事業は多岐にわたりますが、在任中の一番の出来事は「推進員養成講

座」の再開であります。「宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌」を機に休止しておりましたが、御遠忌後「同朋会運動50年の総括」作成時、「推進員養成講座」について教区内全組に聞き取り調査を実施しました。そこで出された問題点をもとに「同朋の会結成サポートプラン」が立ち上がり、「二カ寺一同朋の会結成」のために組単位の事業から申し出られた寺院への取り組みへと舵を切ったわけです。しかし、教区内の数カ組とご門徒さんから「推進員養成講座」の復活を願う声が出されました。「僧俗共に聞法していくことが大切なんだ」という門徒さん・住職さんの思いが響いてきました。休止・再開と変遷してきましたが、自分にとっては決して無駄な空白期間と思えません。この間の試行錯誤によって、「同朋の会」は自分が聞法する場であったと改めて気づかされました。そして、教区・組の教化事業であったとしても、常に自坊の活動が課題になっているのかどうか問われているよう

に思いました。

「推進員養成講座」が休止・再開という両方の決定がされた場にいた自分として、経緯や問題点を皆さんに説明する責任を感じておりました。「同朋会議」「同朋の会教導協議会」等でお伝えし、問題の本質を一緒に考えていく努力をしてきたつもりであります。同時に「幹事という立場が事業をこなそうとしているのではないか。仏法に立った活動になっているのか」というありがたいご教示をいただきながらの任期でありました。

新型コロナウイルス流行によって「同朋大会」「同朋会議」を始め、2019年度後半の教化事業は中止・延期・変更を余儀なくされました。今後も寺院・組・教区の教化をどう考えていけばいいのか、苦悩の中で手探りでの活動になるうかと思えます。新教化委員会が出された「教化方針」にあるように自坊の一カ寺に立つて考えることが基本だと思います。有縁の目の前の方々や新型コロナウイルスが私たちにもたらしたことを学んでいきたいと思えます。

皆さま、どうもありがとうございました。

合掌

教区教化通信

総合調整総務会 幹事挨拶

東京5組 西蓮寺 白山 勝久



総合調整総務会幹事を6年間務められた近田聖二前幹事より受け継ぎ、幹事を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

2019年度後半は、新型コロナウイルス拡散防止の観点から、ほとんどの教化事業が中止・延期となりました。各寺院における活動も、その多くを中止されたことと思えます。新型コロナウイルスは現在においても収束したわけではなく、今後も状況を鑑みながらの教化活動となります。

「これから先、何をすべきか」と、教化活動や寺院護持に対する不安や焦りがあることと思えます。けれど、このコロナ禍において、お寺を気にかけてくれるご門徒がいて、法話

を求めるご門徒がいて、その声に応えるべく法話配信される僧侶がいて：法（教え）を求めている人の姿が顕在化した自粛期間でもありました。

僧侶の勤めは教法の宣布であり、わたし（僧侶）自身が聴聞の生活を送ることから始まりま

ります。自粛期間中、あらためて聖教に向き合われた方もいるのではないのでしょうか。

教法の宣布という意味においては、「これから」も「これまで」も変わりはありません。

これからの模索するということは、これまでを見つめ直すということでもあります。

教法の宣布自体は各寺院でもできます。けれど、他のお寺、組、教区には、それぞれの形で教えに向き合っている人がいます。この

東京教区で出会った人々と共に教えを聞き、伝えてゆく。その学びが、自坊での教化へと

還ってゆく。循環してゆく教化活動を思い描いています。

「人の誕生」と「場の創造」ということが

言われてきました。今まで、未来の話として「人が誕生すること」と「場が創造されること」と思っていました。けれど、このコロナ禍において、法を求める人の姿が顕在化し、状況に応じて法話を届けられる可能性が見えてきて、「人はすでに誕生している」「場はすでにある」ということを感じました。これまでに会っていた「人」と「場」を大切にしてい、これからも法に聞いてゆくことが、「人の誕生」と「場の創造」ということだと思えます。

2023年にお迎えする慶讃法要。親鸞聖人の誕生と立教開宗は、ふたつの事柄ではなく、ひとつのことだと思えます。聖人の誕生があつたからこそ念仏の教えが伝わり、念仏の教えが人びとに届いたからこそ宗祖としての親鸞聖人が誕生しました。教えという種が芽吹き、花咲き、枯れ、種となり、その種がまた芽吹いてゆく。念仏をよりどころとしてきた人びとのおかげで、今、私も念仏を称えることができます。今、私が念仏を称えることが、後の人へも伝わってゆきます。「これまで」を大切にしながら「これから」の教化活動に努めたいと思えます。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



上から

伝道講習会学習会「業縁の会」(2018年10月17日)

同朋の会教導協議会(2018年12月18日)

新住職のつとめ(2019年6月1日)

教区報恩講(2020年1月26~28日)

教化委員会総会(2020年6月18日)

教区教化通信

同朋の会推進部門 幹事挨拶

山梨組 佛念寺 藤谷 真之



2020年度から同朋の会推進部門の幹事をつとめさせていただくご縁を頂戴しました。藤谷真之と申します。当部門の活動の底には、「仏法の温泉」に共に浸かることを大切にす
る伝統があります。僧俗ともに膝をつき合
せ、平座で語ることが出来る場を作る。ふと
行き詰まった時に帰ることが出来る場である
こと。これからも、その点を大事に一貫して
活動していきたいと考えています。
しかしながら、新型コロナウイルスが蔓延
する状況下において、果たしてどのような形
で活動することが可能なのか、悩ましいとこ
ろです。目標とするような大切な「場」とな

るには、先ず人々が相会することや密な関係
になることが肝要ですが、現状は三密を避け
ることが強いられており、矛盾を抱えていま
す。いま、教化活動全体が問われているので
はないでしょうか。

この危機的状況は各寺院においても同じこ
とが言えると思います。同朋の会はどうして
おられますか？ご法事や大切な報恩講も今
まで通りにお勤めできるか分からない状況で
はないでしょうか。

ただ状況を嘆いてばかりもいられません。
これまで大切にしてきた活動の願いに帰り、
必ずや現下の生活に悩み苦しむ人間存在をも
照らし出すであろう、親鸞聖人の教えに共に
聞いていきたいと思えます。そしてこれから
の方向を見出せるよう、私たちの部門に出来
ることを模索していきたいと考えております。
諸兄からのご意見・ご参画を切にお願い申し
上げまして挨拶とさせていただきます。



2019年度 真宗門徒秋のつどい～推進員のつどい～
講師：池田 徹 氏（三重教区 西恩寺住職）
講題：『場』の創造—仏弟子の道に立つ—
©2019年10月21日～22日

研修部門 幹事挨拶

東京3組 福成寺 西尾 朋央



前期に引き続き、研修部門の幹事を務めさせていただきますこととなりました西尾朋央と申します。新型コロナウイルスの影響でどの事業も不透明なことが多いのですが、その中でも出来ることを模索し、形式に囚われることなく、教学研鑽・仏法や僧伽との出遇いの場を作っていくかと思っております。はなはだ微力ではございますが、精一杯務めさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

さて研修部門は、前期までとは部門内の体制が変わります。前期までは「秋安居」「聖典学習会」「得度研修」、さらに実行委員体制で「新教師のつどい」をそれぞれの担当委員が開催しておりました。それを今期から「秋

安居」「聖典学習会」で一つの班、そして「得度研修」「新教師のつどい（実行委員体制から研修部門の事業とする）」を一つの班にいたします。

「秋安居」「聖典学習会」の開催目的は「教区内僧分の教学の研鑽の場である」ということ、「得度研修」「新教師のつどい」の開催目的は「僧伽との出会いや、各立場から願われていくことを確認する」ことです。

今年度「聖典学習会」は当面の間オンライン会議ツール「Zoom」で開催いたします。「秋安居」は本山の「夏安居」が中止となったため、安居のご講師をお招きすることはできませんが、何らかの形での開催を模索中です。「得度研修」「新教師のつどい」も、例年の形式ではなくなると思いますが、出来る所での開催を目指します。

委員一同、開催目的と課題に真摯に取り組んでまいりますので、是非各研修会へご参加をお待ちしております。



右：秋安居（2020年2月20日～21日）
左：得度研修（2019年3月26日～27日）



教区教化通信

青少幼年部門 幹事挨拶

東京2組 専念寺 田澤 廣明



この度、青少幼年部門の幹事を務めさせていただくことになりました田澤廣明です。これまで2期にわたって当部門の委員を務めてまいりました。共に委員を務める素晴らしい仲間たちと尽力してまいりますので、よろしくお願いいたします。

青少幼年部門は、教区内若手世代の「出遇い」と「学び」を大切にしていく部門であり、現在は「青年のつどい」「青年学習会」「青年研修会」という3つの事業を企画し開催しております。また、実行委員体制事業に「お寺の子ども会サポートプラン」、委託助成事業に「児連サマーキャンプ」があります。同世代の若手が集まり交流親睦を深めつつ、

時に楽しみながら、時に悩みながら、共に生きる仲間として学びを深めていく。そして教えに照らされながら、各自の日常の課題や悩みを共有し、語りあい、聞きあい、向き合っていく。そのような一人ひとりが主体となっていく場が開かれていくことを願いとして活動しております。

前期の3年間のの中では、委員それぞれの関心の中から事業を重ねていく中で、自然と「若い世代だからできること」というテーマが浮かび上がってきました。今体制でもこれまで感じてきた願い・課題を大切にしつつ、歩みを進めてまいります。コロナ禍という逆風が吹き荒れる昨今ですが、オンラインの活用を始めとして、今できることを模索し、「出遇い」と「学び」の場を仲間と共に作っていかうと思っております。

みなさま是非、青少幼年部門の活動に御参加ください！



右上：青年研修会「教化とは、儀式の視点から学ぶ」竹橋氏（2018年2月16日）
 右下：青年学習会「市川行徳皇太子御誕生（2018年10月17日）
 左上：青年のつどい「石川県・鳥取県にて」（2019年4月22日）
 左下：遊びに学ぶ？「児連研修会&BBQ」（2019年6月16日）

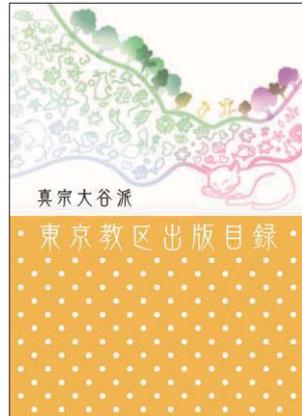
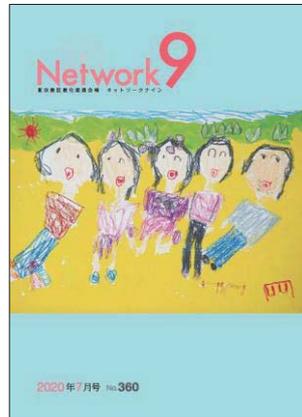
広報・出版部門 幹事挨拶

東京1組 本明寺 本田 彰一



前期に引き続きまして、広報出版部門の幹事を引き受けさせていただくことになりました。よろしくお願ひいたします。

前期は、『ネットワーク9』班においては、紙面のカラー化と内容刷新を行いました。ホームページ班においては、寺院検索ページの検索機能の追加や視覚から情報を得ることができない方に対して、録音図書「聞いてらっしゃい」をスタートさせました。出版班においては、『揭示伝道ポスター』のミニ版（ハガキサイズ）、教区出版物・組出版物の頒布奨励のために『教区出版目録』を作成しました。最終年度には広報出版部門全体での内部研修



を行い、教区内外に情報を発信する部門として「コミュニケーション思考の基本」を学びました。

さて、前期ではこのように新しいことを多く始めさせていただきました。しかし、既存の事業の点検、見直しということが不十分であり、関係各所に「迷惑をおかけしました事は反省をしております。

今期からは広報出版部門のこれまでの事業の点検、見直しと、さらなる事業充実を図るために、『ネットワーク9』班、ホームページ班、出版班の各チーフを広報出版部門の教化委員とし、これまでの縦割りでの活動は残し

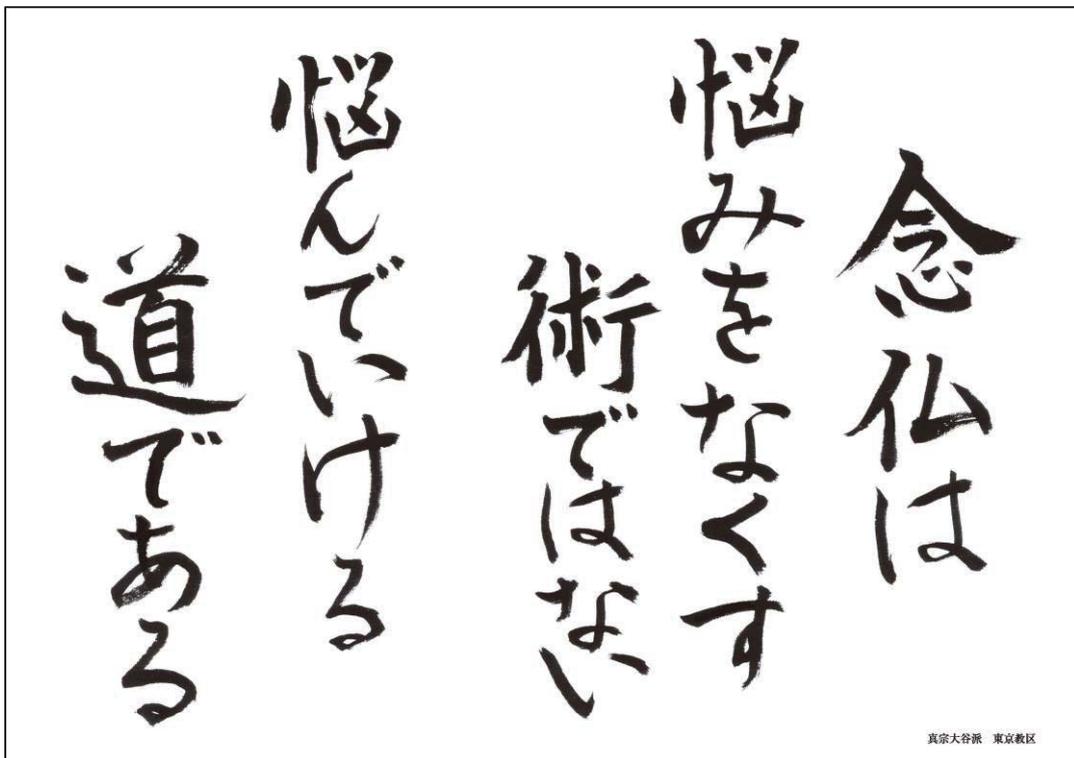
つつも、3班が連携を取りながら事業を考え、いく体制づくりを行っていきたくと思ひます。

最後にコロナ禍において、また、2023年にお迎えする慶讃法要に向けて、広報出版部門の重要性がこれまで以上に増したと考えています。本山、教区、組、寺院・教会が一体となり、教区内寺院・教会に、ご門徒に、そして地域社会に発信できる広報出版部門にしていきたくと思ひますので、皆様方のご協力と、叱咤激励のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

上から 『ネットワーク9』
『教区出版目録』

教区ホームページ「寺院検索」ページ

今月の法語



書：佐藤 多仙

- ・頒布中「掲示伝道用ポスター」(A2 サイズ)
「掲示伝道ポスターミニ」(ポストカードサイズ)
- ・「掲示伝道用ポスター」が貼れる門徒宅用掲示板を無償設置いたします。
詳細は東京教務所まで。

「聖典学習会」特別講座（オンライン）

千葉組 道誠寺 市野 光生

新型コロナウイルス禍によつて4月に予定されていた聖典学習会「正信偈に学ぶ」は残念ながら中止となりましたが、先行きの見えないこの状況下であっても、新型コロナウイルス感染防止のもと仏法聴聞の場を大切に開いていきたいという願いから、6月15日（月）にオンライン会議ツール「Zoom」を使用した初のオンライン配信で「聖典学習会」特別講座を開催することを決定しました。

テスト配信のため、今回に限り教師しやうほ 陞補対象外、無料、また従来の「正信偈に学ぶ」ではなく、事前に撮影された一楽真先生のご法話（30分）を配信視聴し、その後は質疑の時間（50分）を設け、講師と参加者が互いにライブで話せる形で開催されました。

事前にフェイスブックや「浄土真宗の法話案内」サイトでの告知もあり、教区内有教師、ご門徒のみならず、全国各地から東西両派を超えて、住職、坊守、熱心なご門徒が89名参加されました。

会終了後に記入いただいたアンケートでは様々な叱咤激励のお言葉を頂戴しました。そのアンケートを通して、このようなオンライン、Zoom配信の法話会や学習会は、新型コロナウイルス感染防止の利点だけでなく、ご法務や育児や介護などの生活における様々な理由で聞法の場に出かけることのできなかった方々が在宅のまま参加できるということもあり、大変期待を寄せられていることがわかりました。その期待が大きいほど、これからの配信には細心の注意をしなければならぬと感じました。ただオンライン配信するにあたっては、やはり配信上のトラブルやリスクはつきものです。いかによりよい配信で、従来の聖典学習会に近づける場をつくっていかけるかが今後の課題です。

次回からは、通例の「聖典学習会」として「正信偈に学ぶ」と題した大谷派教師対象の法話講座としてZoom開催する予定で、準備を進めています。オンライン配信なので、

各自パソコンやタブレット・スマホを通しての参加です。あらかじめダウンロードの手順や使用方法を記したマニュアルの用意がありますので、初めての方であってもサポートできます。特に東京教区内有教師の方は奮ってご参加ください。従来通り、僧俗問わず、聴講の参加を広く募る予定ですので、皆さまのご参加をお待ちしております。

次回「聖典学習会」（オンラインを含む）

日時：8月24日（月） 14時～16時45分

参加費…1,000円

当日の日程（予定）

- 13時30分 アクセス受付時間
- 14時00分 開会
- 14時15分 講義（45分）
- 15時00分 休憩（15分）
- 15時15分 講義（45分）
- 16時00分 休憩（15分）
- 16時15分 質疑（30分）
- 16時45分 終了

※日程は変更になる場合があります。

※詳しくはチラシをご覧ください。

※お問い合わせは、東京教務所（担当…渡邊 楽）までお願いします。

教区教化通信 青少幼年部

第5回青年学習会 オンライン輪読会

東京7組 常願寺 藤森 和貴

去る6月5日(金)、第5回青年学習会として「オンライン輪読会」が開催されました。青少幼年部門の事業としては初めてのオンライン開催ということで、不安半分楽しみ半分でしたが、当日は多くの方に参加していただきました。

輪読では『ネットワーク9』5・6月号に掲載されている緊急特集「異常事態が続く生活の中で、我々、真宗門徒の立脚地はどこにあるのか」を読み、その後座談に移り、「若い世代だからできること」をテーマに、ご自身の近況や直面している問題、今、私たちに何が求められているのか等々を、3班に分かれて話し合いました。

今回率直に感じたことは、人と対話することができてとても嬉しかったということです。外出自粛生活が長く続き、人と接する機会も大幅に減りました。今まで当たり前と思っていたことも、そうでなかったとつきつけられ

た現状下において人は根源的に、誰かとつながっていたいという欲求を抱えながら生きていくんだ、ということを教えられた気がします。

また、当日は機械が故のアクシデントもありましたが、今後の活動の可能性を広めた有意義な時間であったと思います。

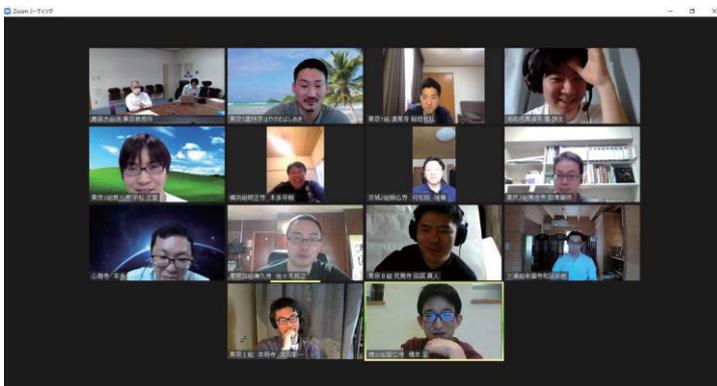
東京3組 教元寺 平松 正宣

今回の青少幼年部門の学習会は、新型コロナウイルスの流行による感染拡大防止のために、初めてウェブ会議サービス「Zoom」を使用した輪読会となりました。

まず、『ネットワーク9』の緊急特集「異常事態が続く生活の中で、我々、真宗門徒の立脚地はどこにあるのか」に寄稿された文章を輪読した上で、3班に分かれて座談を行いました。座談においては、法要などの行事を中止せざるを得ない寺院の置かれた状況や、コロナ禍の現状に限らず現代社会の中で、僧侶

や寺院に求められている事や何ができるのかなど、活発に意見交換ができたように思われます。

普段、学習会に参加する方は東京周辺の方が主体でしたが、ウェブ上で行う事で会場までの移動時間など距離による制約がなくなり決まった時間にパソコンかスマートフォンでシステムにログインすれば参加できるので、いつもは申し込みを見送っている方も気軽に参加できるように思えました。



ウェブ会議サービス「Zoom」を使用した
オンライン輪読会の画面

私が出遇った言葉

東京8組 源通寺 小笠原翔



[Human]と[Nature]

まず初めに、新型コロナウイルスによって亡くなられた方、そのご家族へお悔やみ申し上げます。また最前線で動かれている医療従事者、専門分野の方々に敬意と感謝の意を表します。

さて、副題がMichael Jacksonの曲のようになりましたが、この新型コロナウイルスの蔓延が始まり早くも半年ほどが経ちました。ここまで大事になるとは全く想像もできませんでした。世界中の経済が止まり、私たちの生活も外出自粛等で大きく変わり教学館も例に漏れず初リモート特別講義となりました。今回の講義を通して、この新型コロナウイルスという存在を考えていくことにおいて講師

の森田真生氏(独立研究者)の言葉から印象に残ったことがいくつかありました。一つは生物学の観点からは、地球上の物事の関係性は、一番上に全てを俯瞰できる存在がいて、下にいる存在を動かしていくヒエラルキー構造ではなく、複数の方向から相互に関係し合って存在しているメッシュ(網)構造で成り立っているのではないかと言うこと。もう一つは「Human」と「Nature」という二つの項目の中で、「Human」が自力で世界の問題(Nature)を解決しようという考え方の枠組みを解(ほど)いていくことを世界共通で信じて言語化し実践していくことが必要ではないかということでした。印象に残った言葉は他にもありましたが、

この二つを通して感じた事は、私たちが阿弥陀と呼んでいる用はたらきによって、自我分別で生きる私が自覚させられ自己が照らされてくるといふ、「自我」と「自己」への気づきが前提としてあるのだと思います。そしてそれは森田氏の話されたことでは、メッシュ構造の中の私への目覚めなのかもしれません。歴史上いつもヒエラルキー構造の上に立とうとする私たちの自我が、今回の新型コロナウイルスという存在によって大きく問われているのだらうと思います。ウイルスを下と捉えるのか、フラットな存在として捉えるのか。「ヒエラルキー」と「メッシュ」、「Human」と「Nature」という話を聞き、改めて真剣に向き合っていかなければならないと感じさせて頂きました。

第14回 教学館月例研修会

2020年6月12日

特別講義：「数学を通して「人間」を考える」

森田真生氏(独立研究者)

※オンライン開催



「和の心」を育てる中で・・・

聖徳学園八王子中央幼稚園では、“三つ子の魂百までも”と言いますように、幼児期に基本的な生活習慣を身に付けることは常識ある大人として成長する上で、とても重要であると考えております。例えば、挨拶や「ありがとう」と言えることが人間関係を築いていくのに欠かせません。私達は、遊びを通して様々な経験をし、きちんと社会生活が送れることをねらいとし、日々保育を行っております。又、学園の建学の精神「和」



を大切にし、一人ひとりの心の成長を育てています。そのような関わりの一つとして、年長組が満三歳児クラスへ行き、登園時、降園時の支度や挨拶、遊具の遊び方、片付け方等共に過ごしながら、お世話を行ってまいりました。年長組の子どもも進級したばかりの時

は、まだまだ自分のことで精一杯の子どももいましたが、お世話を重ねていくことで、年長児としての自覚が芽生え、自分の行動に自信が持てるようになっていきました。そして、小さなお友達に対する思いやりの心、優しい気持ちが自然ともてるようになりました。満三歳児の小さな子ども達も「あ、お兄ちゃんだ!」「お姉ちゃん、これやって」「ありがとう!!」と年長組との関わりを喜び真似ながら、様々な事を身に付けていくことが出来ました。一日の生活のどんな場面でも、このような関わりが沢山見られました。給食時一緒に頂きながら「〇〇ちゃん、箸はこうして持つんだよ。」と教えたり、時には「食べさせてあげるね」と一生懸命に口へ運び食べさせている姿、降園時には、手をつないで玄関まで移動し、「お姉ちゃん、やって!!」「靴を履こうね。こうして履くのよ。」と必死に見本を見せながら靴の履き替えを手伝っている姿など、とても微笑ましい姿が沢山見られました。その姿を見ることで、これからも「和の心」を大切に育てていきたいと考えを新たにしました。

聖徳学園 八王子中央幼稚園
 (東京都八王子市)

主任教諭 小林 良子



こんな時でも こんな時こそ 教えに出遇える

インターネット法話のご案内

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各所での法座が中止になっております。また、「仏法には、明日と申す事、あるまじく候。仏法の事は、いそげ、いそげ」(『蓮如上人御一代記聞書』)と申しますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、法座へ足を運びにくくなっている現状です。

しかし、こんな時でも、こんな時こそ、教えに出遇えるご縁として、インターネットで法話を聴聞してはいかがでしょうか。今だから聞けるお話。今まで出会えなかった先生のお話。インターネットだからこそ、場所も時間も気にせずに聴聞することができます。これを機にぜひご利用ください。

| | | |
|--|--------------------------------|--|
| | サイト名 リンク先 URL | 真宗大谷派 東京教区「暮らしにじいん」 http://www.ji-n.net/ |
|--|--------------------------------|--|

録音図書 聞いてらっしゃい

お坊さんの如是我聞 (によぜがもん)



| | | |
|--|--------------------------------|--|
| | サイト名 リンク先 URL | 真宗教化センター「しんらん交流館」 https://jodo-shinshu.info/ |
|--|--------------------------------|--|

いま、あなたに届けたい法話

子どもたちと聞く法話♪



| | | |
|--|--------------------------------|---|
| | サイト名 リンク先 URL | 東本願寺「真宗会館」 https://shinshu-kaikan.jp/ |
|--|--------------------------------|---|

真宗会館 YouTube



はい！こちら真宗会館です

駐在日記



駐在からひとこと

教区教化委員会の会議・研修は
Web 上での開催が増えました。

写真：父の日に娘からの贈り物

東京教区駐在教導

佐々木 弘明

「歴史を紡ぐ」

練馬区にあるのに「としまえん」。その理由は、ここには書ききれないので、みなさんで調べていただくとして、先般、今年の8月31日をもって94年の歴史に幕を閉じると発表された。

教務所の近隣にあるので、いつでも行くことができると思っていたが、閉園してしまうことを知り、家族で行ってみようということになった。

いくつかの乗り物に乗ったが、どの乗り物も昔ながらの遊園地という印象で、どこか懐かしさを感じた。中でもメリーゴーラウンド「カルーセルエルドラド」は、回転している間「ミシミシッ」と音がしていて少し不安になった。乗り終わってから、現存する遊戯機械としては日本最古であり、世界的に見ても最古級のものだということを妻から教えてもらい、その事実には驚いた。調べてみると、1907年にドイツで作られ、ヨーロッパ各地を転々とし、その後

アメリカに渡り、日本に来たという歴史があるそうだ。ちなみに2010年には「機械遺産」として認定されている。

話は変わるが、昨年、真宗本廟の境内建物が「重要文化財」に指定された。指定された翌日にちょうど真宗本廟奉仕団に参加していたとき、教導の方が「重要文化財に指定されたことは、すばらしいことだが、教えが受け継がれていかなければ、これから何十年か先に、伽藍だけは残り、真宗本廟を案内する人が『昔はここに真宗門徒と言われる方々がいて、念仏を称え、信心を確かめる場所でありました』と説明するような状況になっているかもしれない」と仰っていたことが思い起された。

歴史は、そこに関わった「人」を通して形成され、紡がれていく。その紡がれた歴史が、また次の世代に引き継がれていく。私は自分が関わったあらゆる歴史の一端を担っている。

はい！こちら真宗会館です



東京宗務出張所書記
中臣 研諒



担当：東京宗務出張所事務全般
(中央諸機関との連絡・渉外)・
首都圏教化推進本部補助(開教部門)
最近3日坊主だったこと：ランニング

新型コロナウイルス予防の為、真宗会館でも在宅勤務やリモート会議などの策がとられ、家に居る時間が増えた。それぞれが行動を十二分に気を付け、人と接することを躊躇うような日々が続いている。

この数ヶ月で、「ライブ感」を味わえるものが一気に減った。法話、飲み会、歌手のライブなど仕方がないことだが、どこか物足りないと感じた。そんな中、「リモート飲み会」というものが流行り、私を含め沢山の人が利用しただろう。人は何か足りないと思うと新たな用途で補おうとする・・・そこまでして飲みたいのか？とも思ったが、心のどこかで、人と一緒に飲みたい、話した

いという気持ちが勝った。

リモートとは進化なのか、退化なのか、移動がなくなり楽になったが、対面で話し合うということが無くなり、微妙な表情の変化や声色から感情が読み取りづらくなった。

「便利と怠けを勘違いしてはならない」どこかで聞いたことがある。リモートが怠けだとは思っていないが、何をとっても、人は便利なもの、新しいものに飛びつく。私も例外ではない。

「10万円で何を買おうか」そんなことばかりを考えている。

余談だが、おそらく今年の漢字は「密」であろう。そう思いながらニュースを見ている梅雨の日。

教区の情報をおあなたに あなたの声を教区に!!

一緒にネットワーク9を作ませんか?

編集員募集中!!

Network 9

東京教区教化委員会報 ネットワークナイン

取材、原稿執筆、校正、デザインなど、紙面作りに関するすべてを行います。お寺の新聞やチラシを作る時のスキルも学べるかもしれません。パソコン初心者の方でも大歓迎です。先輩編集員が丁寧にご指導します。一緒に楽しいネットワーク9を作っていきましょう。興味がある方、お問合せは東京教務所（担当：佐々木）まで

ネットワーク9へのご意見・ご感想をお寄せください
〒177-0032 東京都練馬区谷原1-3-7 東本願寺真宗会館内 東京教務所
【電話】(03)5393-0810 【ファックス】(03)5393-0814
【mail】nw9@ji-n.net



スマホやパソコンでぜひアクセスを! 東京教区のホームページ

暮らしに
じいーん



www.ji-n.net

検索 暮らしにじいーん

お寺をもっと身近に

多彩なコンテンツ

- じいーん散歩 **New**
- しんらんさまめぐり
- 法話/行事・講座
- なるほど仏事作法
- 寺院検索
- 他

うちのお寺も載しなよ!



スタッフ募集

パソコン技術は不要です

ホームページ班のメンバーは僧侶に限らず、月に約1回のペースで集い、アイデアを出し合ったり、時には現地取材もしています。ぜひ一緒に活動しませんか? (お問合せは教務所/不動まで)



6月敬弔

佐々木 緑 様

東京4組 西應寺 坊守
6月9日命終 88歳

生前のご功勞を偲び、
念仏合掌して哀悼の意を表します。

涌ゆう

編集員の随筆



新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン会議が増えた。当初は目新しさもあり、また会議に向かう移動時間がなくなることから、「なんてすばらしいシステムなんだ」と喜びすら感じていた。しかし4カ月が過ぎ、この生活にも慣れた今となつては、何とも言えない疲れと虚しさに襲われている。

まずは、自分の時間の作り方。オンライン会議ギリギリまで別の仕事をして会議に突入。会議終了後もすぐに別の仕事に取り掛かる。以前ならば車や電車で会議に向かう間に、会議に向けて頭を準備する時間だったり、たまには何も考えずにリフレッシュする時間だったり、帰りはみんなと一杯飲みながら頭を整理する時間だったのかもしれないと、これまで意識していなかった「余白の時間」の大切さに気付いた。

オンライン飲み会で「親鸞がこの状況下に居たら」ということを話したことがあった。

親鸞はユーチューバーになっているとか、SNSを使いこなすとか、オンラインを駆使して教えを伝えることを考えるだろう。しかしそこには「おのおの十余か国のさかいをこえて、身命をかえりみずして」(歎異抄第2条)ということはないわけである。当時の門弟は親鸞を訪ねる道中も様々なことを考え、自己の問いと向かい合ったに違いない。親鸞の話がオンラインで聞けたとしても、その言葉が響く所、自己の問いがはつきりしていなければ、その言葉を聞いても空しいものになるだろう。親鸞自身も百日の参籠を経て法然の元を訪ねたのは、自身の問いと向き合う上で大切な時間だった。

これからオンラインを中心に事業が行われる。その中において、その中だからこそ、自己の問いと向き合う「余白の時間」を作り大切にしていきたいと思う。

(東京1組 本明寺 本田 彰一)